宣言明けて、エンジンフル稼働

各分会からの報告では多くの分会から、「宣言解除をきっかけに、訪問行動を活発化させていきたい」との声が聞かれました。また、ホームセンターのユニディと交渉し、店舗の駐車場で宣伝行動を取り組むという分会もありました。

「成果持ち寄り」では、3分会より6人の成果があり、続いて登壇した桑名組織部長からは、10月の分会執行委員会で群長に協力の訴えを徹底するよう提案がありました。

最後に黒木副委員長の発声で団結ガンバローを行ない、目標達成への決意を固めて閉会となりました。

町田　「最後まで諦めずに」
中間決起に6人持ち寄り

目標達成への決意を固めて「団結ガンバロー」

【町田・書記・澤海比可瑠記】町田支部は、10月10日に支部会館で拡大中間決起集会を開催。コロナ禍で分会1人の縮小開催としたため、参加者は28人でした。

冒頭、挨拶に立った尾花委員長は、「緊急事態宣言も解除されたので、積極的な訪問・対話を展開し、最後まで諦めずに行動をお願いしたい」と訴えました。

板橋　日曜行動で仲間を訪問
全分会達成めざす

訪問先で息子さん（中央）にメリット袋を渡す舟渡高島分会の仲間

【板橋・書記・武田栄一通信員】板橋支部は秋の拡大月間後半戦をむかえた10月10日に「日曜行動」を行ない、地域の15分会が取り組みました。

各分会センターに集合して「元気の出るたまご」と様々な資料の入った「メリット袋」をもって仲間を訪問。拡大月間への協力を訴え、コロナ支援金の紹介や支部開催のフルハーネス特別教育、後継者対策部主催のグランピング&BBQ企画、火災共済の案内などで対話しました。また、11月14日に分会ごとに開催予定の住宅デーポスターの貼り出しなどをお願いしました。

10日までに仲宿分会、舟渡高島分会が目標達成しています。全分会目標達成、年間目標15%をやりきる構えで仲間への訪問、そして組合内の事業所訪問にも取り組んでいきます。

八王子　シニアがオンライン旅行
知覧で平和の尊さ学ぶ

ガイドさんのクイズに答える参加者の皆さん

【八王子・設計監理・湯浅崇司記】緊急事態宣言中の9月20日、八王子支部シニア友の会最大のイベントである秋の旅行が実施された。初めての試みであるこの企画、日頃遠くて行くことのできない「鹿児島・南九州市知覧の旅」にオンラインで旅をした。行きは新幹線鹿児島中央駅、こからは、待ち合わせの観光バスで雄大な桜島、知覧の茶畑を眺めながら地元の名バスガイドさんの案内で主目的地の知覧平和公園に到着。

公園では、ゼロ戦特攻隊1036人分の「灯篭（とうろう）」、若い隊員の遺書となった父母への手紙等を見ることができた。中でも、ガイドさんの朗読で紹介された若い隊員の母親に出した手紙で祖国を守る任務と責任感、母親への感謝の気持ち、「ほたる」になって母親の元に帰る決意が私の心に強く響いた。

1時間半の短いツアーであったが、何か多くのものを得た旅行であった。最後に拡大12人の目標達成を参加者全員で誓い合って閉会。後日談だが、参加者に配られたお土産の鹿児島県産「たまごかけごはんセット」が絶品だった。

清瀬久留米　3回目のコンクール
俳句・川柳で65作の応募

【清瀬久留米・書記・池崎健司通信員】清瀬久留米支部では、今年で第3回目となる〝きよくる俳句と川柳コンクール〟を開催しました。

6月より募集を開始し、8月末に募集を締め切り、9月の期間でWeb、支部掲示での投票で俳句・川柳各部門で優秀作品が決定しました。

入賞作品（各部門3作ずつ）につきましては、支部の機関紙（10月号）などで発表する予定です。

過去に開催した2回のコンクールでは、作品の応募が少なかったのですが、今回は事業所の従業員の方の応募も多数あり、全体で35人65作品の応募がありました。

支部会館の壁一面に貼り出した応募作品

数ある作品の中から、俳句と川柳をそれぞれ1つずつ選んでの投票となったので、支部会館で投票に参加した仲間も、悩みながら選んでいました。

参加いただける仲間も少しずつ増えていますので、今後も工夫して楽しんでもらえるよう取り組みます。

多摩西部・拝島　若手多数参加でBBQ
分会の絆深まる

分会一丸となっての奮闘を誓う

【多摩西部・重機オペレーター・屋代庸秀記】多摩西部支部拝島分会は10月10日、秋の拡大決起集会としてあきる野市の「山渓」にてBBQを開催。緊急事態宣言も解除されたこともあり、無事行なうことができました。

当日は分会四役を中心に次期役員候補の若手も多く、総勢30人の参加。うち約半数が20代以下で、レクの進行や、ビンゴ大会の企画なども青年部長を含めた若手の仲間に担当をしてもらい、フレッシュな雰囲気となりました。

また、一区画を貸し切り開催したので、とても開放感あふれる、笑顔が絶えないレクとなりました。参加者からは「楽しかった」「ぜひまた開催してほしい」など喜びの声が聞けて、開催をして良かったなと感じました。

秋の拡大月間も残りわずかですが、今回のレクを通して分会の絆はより深まったと思いますので、分会一丸となり目標達成に向け最後まで奮闘していこうと思います。

台東　木工キットは完売
防災も訴えた住宅デー

【台東・書記・松村健司通信員】当初6月に予定していた住宅デーを順延の末、10月3日に開催。飲食等の模擬店は行なわず、会場は1カ所のみに設定、支部会館隣りの朝日弁財天公園で実施しました。

事前に小型イスの製作過程を動画で撮影し、オンライン木工教室を企画。会場ではイスの作成キットと動画案内チラシを用意し、作ったイスの写真を支部に送ってくれた方へのプレゼントも企画、親子中心に声掛けしたところ、16セット用意した木工キットは午前中で完売になりました。

区の起震車にも協力いただき、震度6強の揺れを再現しました。実際に親子で体験した来場者からは「初めて体感する大きな揺れで、とても怖かった。でも貴重な経験になった」との感想が聞かれました。ジャッキアップ体験、防災グッズや非常食の展示も行ない、災害時に対する備えの重要性を区民にアピールすることができました。来場者数57組、住宅相談2件、包丁研ぎ71丁でした。

起震車で震度6の揺れを体験する親子